

令和4年度 第1四半期

退職等年金給付組合積立金 運用状況



目次

- ・ 令和4年度 第1四半期運用実績（概要） P 2
- ・ 令和4年度 第1四半期市場環境（その1） P 3
- ・ 令和4年度 第1四半期市場環境（その2） P 4
- ・ 令和4年度 退職等年金給付組合積立金の資産構成割合 P 5
- ・ 令和4年度 退職等年金給付組合積立金の運用利回り P 6
- ・ （参考）前年度 退職等年金給付組合積立金の運用利回り P 7
- ・ 令和4年度 退職等年金給付組合積立金の運用収入の額 P 8
- ・ （参考）前年度 退職等年金給付組合積立金の運用収入の額 P 9
- ・ 令和4年度 退職等年金給付組合積立金の資産の額 P 10
- ・ 資産運用に関する専門用語の解説 P 11

令和4年度 第1四半期運用実績（概要）

運用収益額 + 0.69億円 ※実現収益額
(第1四半期)

運用利回り + 0.09% ※実現収益率
(第1四半期)

運用資産残高 815億円
(第1四半期末) (簿価ベース)

※ 情報公開を徹底する観点から、四半期ごとに運用状況の公表を行うものです。年金積立金は長期的な運用を行うものであり、その運用状況も長期的に判断することが必要です。

(注1) 収益率及び収益額は、当該期間中に精算された運用手数料等を控除したものです。

(注2) 上記数値は速報値のため、年度末の決算等において、変更になる場合があります。

令和4年度 第1四半期市場環境(その1)

【各市場の動き(令和4年4月～令和4年6月)】

- 国内債券：**10年国債利回りは、海外金利がインフレ加速懸念等から上昇基調にある一方で、日本銀行が従前からの金融市場調節方針(10年物国債金利がゼロ%程度で推移するよう、上限を設けず必要な金額の長期国債の買入れを行う)を堅持し、連続指し値オペを発動する等して、同行がレンジの上限とする0.25%を超えないようにコントロールしたことから、上限金利近辺での横ばい推移となりました。
- 国内株式：**国内株式は、期初、米国株安やロシアに対する追加制裁への警戒感から下落しました。5月に入り、円安の進行や出入国制限の緩和、上海でのロックダウン解除による経済活動の再開等を好感して上昇に転じました。期末にかけては、5月の米国消費者物価指数の大幅な上振れによるインフレ加速懸念から、米国株式が下落したことに加え、各国中央銀行が金融引き締め姿勢を示したことで景気後退懸念が広がり、世界的な株安傾向のなかで再び下落へと転じました。
- 外国債券：**米国10年国債利回りは、インフレ加速により上昇基調(価格は下落)を辿りましたが、急速な金融引き締めによる景気後退も懸念されたことから、一本調子の上昇とはならず、足踏み状態となる局面もありました。ドイツ10年国債利回りは、高いインフレ率の継続や、欧州中央銀行(ECB)の金融政策正常化観測を受けて上昇基調(価格は下落)で推移しましたが、期末には、ユーロ圏の景況感の悪化や、ドイツのインフレ率の伸び鈍化から反落する局面もありました。
- 外国株式：**米国株式(NYダウ)は、インフレ懸念による金融引き締め観測が台頭するなか、好調な企業業績や良好な経済指標を背景に堅調に推移する場面もありましたが、期を通して下落基調となりました。欧州株式(ドイツDAX)は、長期金利上昇や、ロシアへの追加制裁の可能性が嫌気され下落基調となりました。さらに、6月に入り、欧州の景気減速が懸念されるなか、ECBの利上げ開始方針の表明や、スイス中銀による電撃的利上げ等から期末にかけて下げ足を速めました。
- 外国為替：**ドル/円は、日米金融政策の違いや日米金利差拡大観測から、大幅にドル高・円安が進展しました。ユーロ/円は、欧州や中国の景気減速懸念により、ユーロ安・円高に振れる局面もありましたが、高いインフレ率に対する金融政策正常化への思惑から、基調はユーロ高・円安で推移しました。

○ ベンチマーク収益率

	令和4年3月末～ 令和4年6月末
<国内債券> NOMURA-BPI総合	▲1.30%
<国内株式> TOPIX(配当込み)	▲3.65%
<外国債券> FTSE世界国債インデックス (除く日本、中国、ヘッジなし・円ベース)	2.66%
<外国株式> MSCI ACWI (除く日本、円ベース、配当込み)	▲5.51%

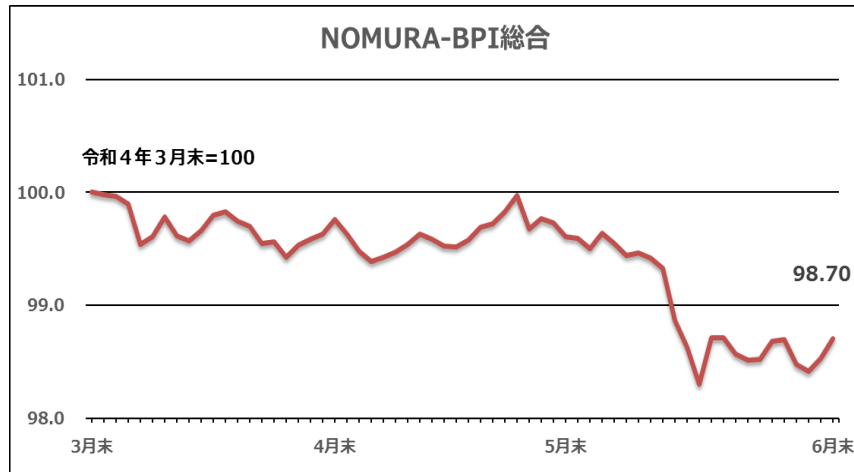
○ 参考指標

		令和4年3月末	令和4年4月末	令和4年5月末	令和4年6月末
国内債券	新発10年国債利回り (%)	0.220	0.230	0.243	0.231
国内株式	TOPIX (ポイント)	1,946.40	1,899.62	1,912.67	1,870.82
	日経平均株価 (円)	27,821.43	26,847.90	27,279.80	26,393.04
外国債券	米国10年国債利回り (%)	2.338	2.934	2.844	3.013
	ドイツ10年国債利回り (%)	0.548	0.938	1.122	1.336
外国株式	NYダウ (ドル)	34,678.35	32,977.21	32,990.12	30,775.43
	ドイツDAX (ポイント)	14,414.75	14,097.88	14,388.35	12,783.77
外国為替	ドル/円 (円)	121.70	129.70	128.67	135.72
	ユーロ/円 (円)	134.67	136.95	138.11	142.26

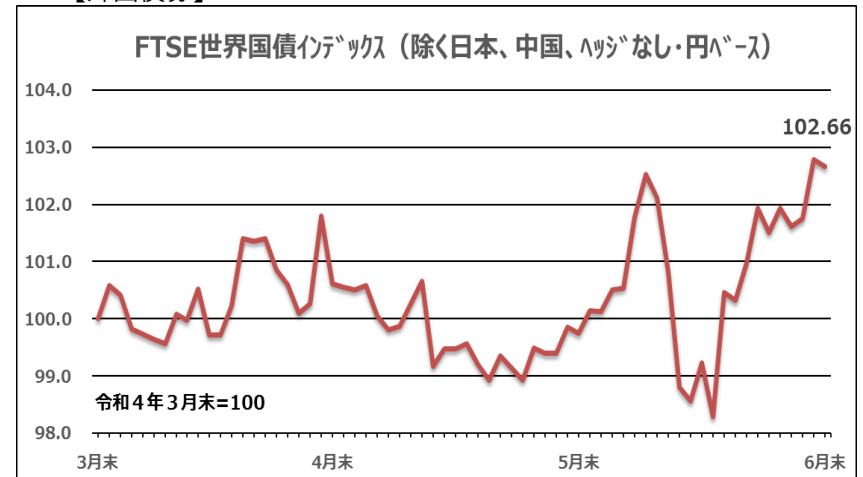
令和4年度 第1四半期市場環境(その2)

ベンチマークインデックスの推移 (令和4年度第1四半期) ※令和4年3月末時点の指数を「100」としてグラフ化しています

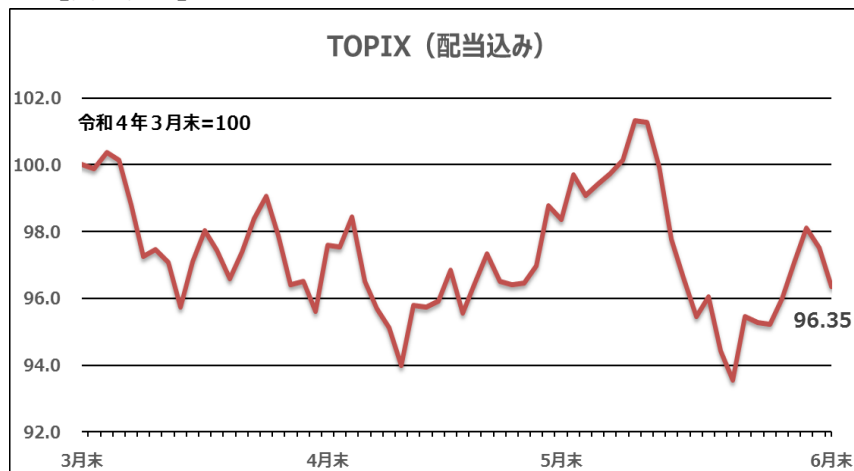
【国内債券】



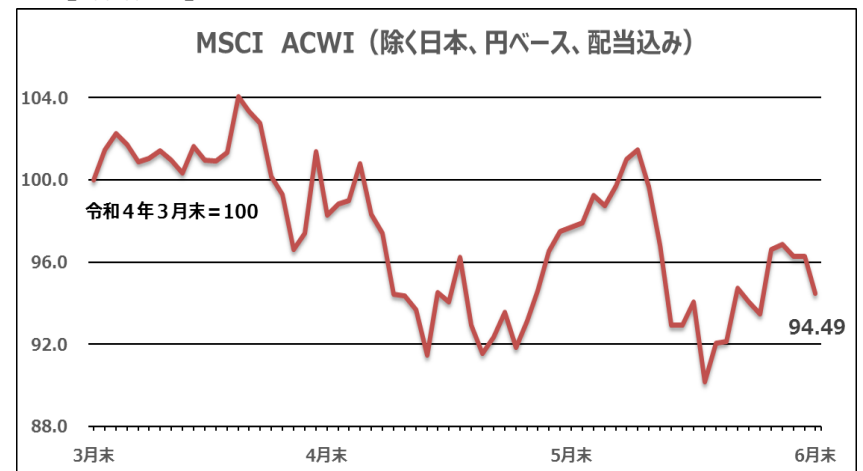
【外国債券】



【国内株式】



【外国株式】

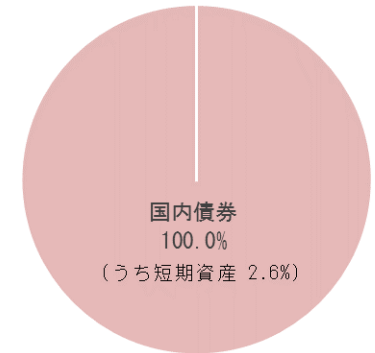


令和4年度 退職等年金給付組合積立金の資産構成割合

(単位：%)

	令和3年度 年度末	令和4年度				基本 ポートフォリオ
		第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	年度末	
国内債券	100.0	100.0	-	-	-	100.0
うち短期資産	(1.7)	(2.6)	-	-	-	
合計	100.0	100.0	-	-	-	100.0

第1四半期末 運用資産別の構成割合



- (注1) 基本ポートフォリオは、国内債券100%です。
(注2) 資産構成割合は簿価ベースの数値です。
(注3) 記数値は速報値のため、年度末の決算等において、変更になる場合があります。
(注4) 各ファンドで保有する短期資産は、原則として当該ファンドが主に持つ資産の資産区分に計上しております。
(注5) 短期資産は未払金等を考慮しているため、マイナスの数値になることがあります。

令和4年度 退職等年金給付組合積立金の運用利回り

- 令和4年度第1四半期の実現収益率は、0.09%となりました。
 ○退職等年金給付組合積立金で保有する国内債券は、満期持切りを前提とするため、簿価評価としています。

(単位：%)

	令和4年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
実現収益率	0.09	—	—	—	0.09
国内債券	0.09	—	—	—	0.09
うち短期資産	(0.00)	—	—	—	(0.00)

(参考)

(単位：%)

	令和4年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
修正総合収益率	▲1.44	—	—	—	▲1.44

(注1) 各四半期および「年度計」の収益率は期間率です。

(注2) 収益率は、当該期間中に精算された運用手数料等を控除したものです。

(注3) 修正総合収益率は、実現収益率に時価評価による評価損益の増減を加味したものです。

(注4) 上記数値は速報値のため、年度末の決算等において、変更になる場合があります。

(参考) 前年度 退職等年金給付組合積立金の運用利回り

(単位：%)

	令和3年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
実現収益率	0.09	0.09	0.09	0.09	0.34
国内債券	0.09	0.09	0.09	0.09	0.34
うち短期資産	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)

(参考)

(単位：%)

	令和3年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
修正総合収益率	0.68	0.11	▲0.10	▲1.69	▲1.17

令和4年度 退職等年金給付組合積立金の運用収入の額

- 令和4年度第1四半期の実現収益額は、0.69億円となりました。
 ○退職等年金給付組合積立金で保有する国内債券は、満期持切りを前提とするため、簿価評価としています。

(単位：億円)

	令和4年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
実現収益額	0.69	-	-	-	0.69
国内債券	0.69	-	-	-	0.69
うち短期資産	(0.00)	-	-	-	(0.00)

(参考)

(単位：億円)

	令和4年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
総合収益額	▲11.34	-	-	-	▲11.34

- (注1) 収益額は、当該期間中に精算された運用手数料等を控除したものです。
 (注2) 総合収益額は、実現収益額に仮に時価評価を行った場合の評価損益の増減を加味したものです。
 (注3) 上記数値は四捨五入のため、各数値の合算は合計値と必ずしも一致しません。
 (注4) 上記数値は速報値のため、年度末の決算等において、変更になる場合があります。

(参考) 前年度 退職等年金給付組合積立金の運用収入の額

(単位：億円)

	令和3年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
実現収益額	0.58	0.61	0.63	0.66	2.48
国内債券	0.58	0.61	0.63	0.66	2.48
うち短期資産	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)	(0.00)

(参考)

(単位：億円)

	令和3年度				
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
総合収益額	4.63	0.78	▲0.72	▲13.22	▲8.53

令和4年度 退職等年金給付組合積立金の資産の額

(単位：億円)

	令和4年度											
	第1四半期末			第2四半期末			第3四半期末			年度末		
	簿価	時価	評価損益	簿価	時価	評価損益	簿価	時価	評価損益	簿価	時価	評価損益
国内債券	815	795	▲20	-	-	-	-	-	-	-	-	-
うち短期資産	(21)	(21)	(0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計	815	795	▲20	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(単位：億円)

	令和3年度											
	第1四半期末			第2四半期末			第3四半期末			年度末		
	簿価	時価	評価損益	簿価	時価	評価損益	簿価	時価	評価損益	簿価	時価	評価損益
国内債券	693	701	7	726	733	7	764	770	6	786	777	▲8
うち短期資産	(19)	(19)	(0)	(13)	(13)	(0)	(25)	(25)	(0)	(13)	(13)	(0)
合計	693	701	7	726	733	7	764	770	6	786	777	▲8

(注1) 上記数値は四捨五入のため、各数値の合算は合計値と必ずしも一致しません。

(注2) 時価及び評価損益は、仮に時価評価を行った場合の参考値です。

(注3) 上記数値(令和4年度)は速報値のため、年度末の決算等において、変更になる場合があります。

(注4) 各ファンドで保有する短期資産は、原則として当該ファンドが主に持つ資産の資産区分に計上しております。

(注5) 短期資産は未払金等を考慮しているため、簿価、時価共にマイナスの数値となることがあります。

資産運用に関する専門用語の解説

- 実現収益額
(計算式)
実現収益額 = 売買損益 + 利息・配当金収入 + 未収収益増減 (当期末未収収益 - 前期末未収収益)
- 実現収益率
(計算式)
実現収益率 = 実現収益額 ÷ 簿価平均残高
- 総合収益額
実現収益額に資産の時価評価による評価損益を加味することにより、時価に基づく収益把握を行ったものです。
(計算式)
総合収益額 = 実現収益額 + 評価損益増減 (当期末評価損益 - 前期末評価損益)
- 修正総合収益率
時価ベースで運用成果を測定する尺度の1つです。総合収益額を、元本平均残高に前期末未収収益と前期末評価損益を加えたもので除した時価ベースの比率です。算出が比較的容易なことから、運用の効率性を表す時価ベースの資産価値の変化を把握する指標として用いられます。
(計算式)
修正総合収益率 = 総合収益額 / (簿価平均残高 + 前期末未収収益 + 前期末評価損益)
- 格付
債権の信用力や元利金の支払能力の安全性などを総合的に分析してランク付けし、アルファベットなど分かりやすい記号で示されたものです。格付機関が付与します。
一般に B B B 格までが投資適格とされ、B B 格以下になると信用リスクが高くなるとされています。